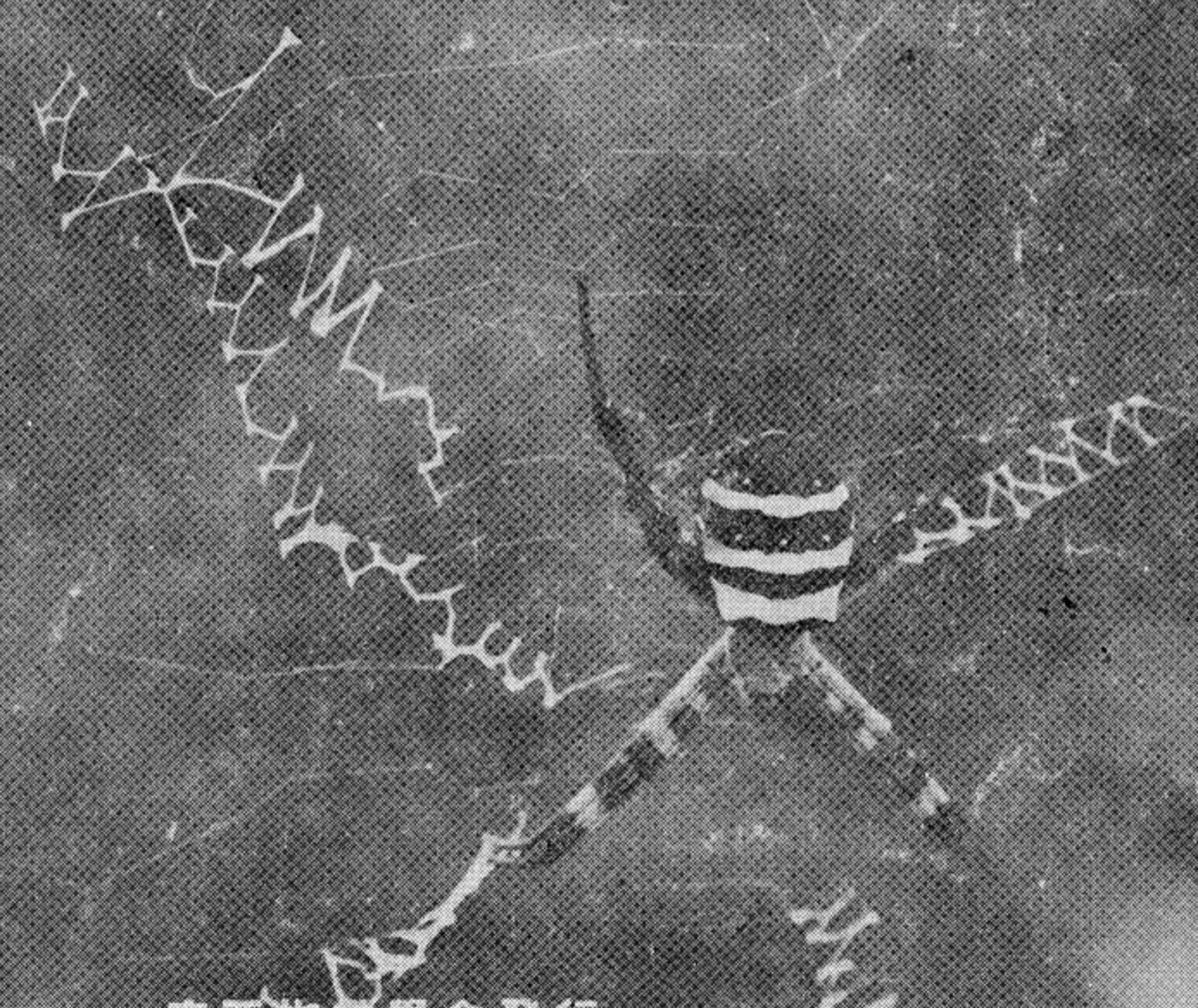


# ACTA ARACHNOLOGICA

ORGAN OF THE ARACHNOLOGICAL SOCIETY OF EASTERN ASIA

VOL. I, No. 1 [1936]



東亞蜘蛛學會發行

昭和十一年六月

## ACTA ARACHNOLOGICA

Vol. 1 JUNE, 1936 No. 1

### 【目次】

表紙	コガネグモ <i>Argiope amoena</i> の♀♂	岸田久吉	
Plate 1.	コガネグモ <i>Argiope amoena</i> の成♀	石澤健夫	
Plate 2.	キバネツノトンボ <i>Ascalaphus</i> を捕へたヤミイロ カニグモ <i>Xysticus</i>	石澤健夫	
Plate 3.	日本帝國産コガネグモ <i>Argiope</i> 五種	岸田久吉	
東亞蜘蛛學會趣意書	理學博士 福井玉夫	2	
東亞蜘蛛學會々則		4	
Acta Arachnol. 寄稿注意	植村利夫	6	
下田の瞽蛛雜記	高島春雄	8	
神奈川県大山にヤチグモを産す	植村利夫	10	
ハトの體內に見出したダニ	理學博士 福井玉夫	12	
日本帝國産コガネグモ屬數種に就て	岸田久吉	14	
コヤマムシの分布と圖説	植村利夫	28	
蜘蛛狩と草刈	坂口總一郎	30	
第一回蜘蛛採集會		13	
會計幹事敬白		31	
編輯後記		32	

### CONTENTS

TAKASHIMA, H. - On the localities of a Japanese harvester <i>Opilio spinulatus</i> , etc.	8
UYEMURA, T. - On a spider, <i>Caelotes exitialis</i> , from Mt. Ohyama, Kanagawaksn, Japan.	10
HUKUI, T. - Something about the mite endoparasitic on pigeon.	12
KISHIDA, K. - A synopsis of the Japanese spiders of the genus <i>Argiope</i> in broad sense.	14
UYEMURA, T. - On a Japanese harvester, <i>Epedanellus laevis</i> .	28
SAKAGUCHI, S. - One method of collecting spiders.	30
etc.	

## 東亞蜘蛛學會趣意書

本會代表 理學博士 福井玉夫

歐洲人コツホ、トレル、シモン、カルシュ、デーニツツ、ヌューマン、ロマン、エリングセン、バクエル、ベーゼンベルヒ、ストランド、レーベル等の諸氏に依つて最初研究された日本の蜘蛛學も、今や邦人の活躍時代となつて非常な發達を見るに至つた事は、御同慶に堪えない次第である。而し乍ら日本の蜘蛛に關する研究は他の動物學の部門に比して、まだまだ黎明期にある事は否むべからざる事實である。學生生徒を指導する教育者は勿論のこと、野外に動物採集を試みられる方々は、誰しも蜘蛛類に關する知識の持合せが少いことに困つて居られる様である。何故蜘蛛學が昆蟲學等に較べて發達が遅れてゐるか云ふ事につきては幾多の理由がある事と思ふが、少くとも蜘蛛が昆蟲の如く人々の興味を惹く事が少いからと云ふのでは無いと思ふ。實際多くの人々が蜘蛛類に興味を持つて居られる様であるが、手頃な文献が少いとか、指導を受ける人が少いとかで、折角の研究心を押へつけて居るのではないかと思ふ。鳥、昆蟲、貝等を研究する人々には、雜誌圖鑑等が多くて便利なのであるが、蜘蛛類に關してはまだ何處からも手頃の専門の雜誌が出て居る事を聞かない。蘭山會發行のランザニアは蜘蛛の原著雜誌を目標として居り、其の上相當一般動物學の原著もあつて、これも純粹の蜘蛛専門雜誌とは云へない。依て一般に蜘蛛類に關する知識の普及を目的とした會の創立又は雜誌の發行を希望して居られる方が多い様に思はれたので、そうした人々の希望に副ふべくここに本會が生れたのである。今後日本、滿洲、支那、ヒリピン各國の蜘蛛類研究家が一致團結して、未開拓の東亞の蜘蛛學を闡明したいものである。尙本會は今後蘭山會とは兄弟分の會として相提携して進んで行きたいと思つて居るから、會員諸氏

にはよく此の點をお含み置き願ひたいと思ふ。但し雜誌の方は、ランザニアは原著雜誌として、本會機關誌の方は普及雜誌として、夫々の使命を持たしめたいと思つて居る。又以上用ひた蜘蛛類と云ふ言葉は、單に眞正蜘蛛類を意味するもので無く、ダニ、ザトウムシ、カニムシ、サソリ等をも含む所謂廣き意味のアラクニダ又はアケラタを指すものである事をお斷りして置く。以上簡單ではあるが本會創立の趣意を述べた次第である。

### 發 企 人 名 簿 (ABC順)

淺井志滿子(東京) 安藤孝(大阪) 有田經夫(熊本) 天貝壽(沖繩) 荒川重理(臺北) 秋山武雄(克山) 土肥豊吉(東京) 江崎悌三(福岡) 江口貢(全南) 福井玉夫(東京) 福田正作(神奈川) 藤田衛(福井) 藤田謹次(公主嶺) 平山修次郎(東京) 白甲鈿(京都) 堀川安市(臺北) 石井悌(東京) 入來重盛(東京) 石澤健夫(東京) 石倉秀次(東京) 飯村繁雄(秋田) 石村清(青森) 池田嘉平(新潟) 井上光雄(和歌山) 伊藤修四郎(京都) 井關尊二(京都) 生駒義博(鳥取) 今泉虎雄(愛媛) 岸田久吉(東京) 本下周太(東京) 加藤正世(東京) 川内國雄(東京) 河野光子(東京) 北野梅太郎(東京) 金子光司(茨城) 神田重夫(神奈川) 小松榮(山梨) 小松敏宏(長野) 小山海太郎(長野) 小杉撰次(静岡) 勝又要(石川) 河根誠(京都) 木村輝夫(京都) 木本茂(和歌山) 北尾淳一郎(宮崎) 神邊利重(大邱) 萱島泉(臺北) 木村冉(小樽) 金丸久(大連) 小島忠三(奉天) 荊谷正次郎(熊岳城) 松村松年(東京) 三宅中二(東京) 茂串茂(東京) 三好晋(茨城) 宮本正一(長野) 宮下義貫(長野) 孫福正(三重) 増田良秋(大阪) 村上良貞(鹿兒島) 前原勘次郎(熊本) 中村倭(東京) 仲辻耕治(東京) 南村清二(東京) 中村正雄(栃木) 丹羽彌(愛知) 中曾根善壽(沖繩) 中島利重(福州) 尾形藤治(東京) 太田仁吉(東京) 大代俊夫(東京) 小野武寛(東京) 太田喜八郎(山形) 大野左主(岐阜) 大前榮次郎(和歌山) 尾崎光太郎(和歌山) 岡本清(和歌山) 王雨郷(臺南) 大島喜四郎(帶廣) 王旭君(北平) 佐々木忠次郎(東京) 齋藤ノブ子(栃木) 酒井恒(靜

岡)坂口總一郎(和歌山) 佐藤清明(岡山) 佐藤井岐雄(廣島) 佐保護(宮崎)  
 素木得一(臺北) 齋藤三郎(札幌) 土田都止雄(東京) 高島春雄(東京) 戸羽  
 源藏(岩手) 高井政次郎(岐阜) 田中庄造(京都) 高橋雄一(兵庫) 高橋幸雄  
 (愛媛) 田中顯三(長崎) 高島太郎(平北) 高橋良一(臺北) 立石新吉(臺北)  
 土居寛暢(京城) 泊尚義(吉林) 内田一(東京) 植村利夫(東京) 宇井縫藏  
 (大阪) 上田常一(京城) 瓜田友衛(樺太) 和田文雄(和歌山) 横川孫左衛門  
 (東京) 山路賀藤治(宮城) 八木沼健夫(大阪) 吉澤覺文(京都) 山内正人  
 (京都) 山根靜雄(廣島) 山口鐵男(鹿兒島) 吉倉眞(樺太) 以上

## 東亞蜘蛛學會會則

### 役員會決議

(昭和十一年四月一日)

#### 1, 會 名

第1條 本會は東亞蜘蛛學會 (The Arachnological Society of Eastern Asia) と稱す。

#### 2, 會 の 目 的

第2條 本會は主として東亞の蜘蛛類に關する知識の普及及同好の士の親睦を圖るを以て目的とす。

#### 3, 事 務 所

第3條 本會事務所は東京市本郷區駒込曙町五, 高島春雄方に置く。

#### 4, 會 の 事 業

第4條 本會は毎年4回(5, 6, 7, 10月)機關雜誌 Acta Arachnologica (略稱 Acta Arachnol.) を發行す。其の他臨時の出版物を刊行することある

べし。

第5條 本會は會員相互の標本査定並に交換等につき便利を與ふ。

第6條 本會は毎年1回8月第2日曜日に年會を開く。

第7條 本會は毎年2月6月8月10月の第3日曜日に東京市又は其の附近に於て採集會を行ふ。

第8條 本會は毎年年會の當日蜘蛛類研究に關する展覽會を開催す。

第9條 本會は展覽會の出品中優秀なるものに對し岸上賞を贈與す。

第10條 本會は蜘蛛學上に有益なる種類の發見に對し東亞蜘蛛學會賞を贈與す。

第11條 本會は以上の他適宜の行事を催すことあるべし。

#### 5, 會 員

第12條 會員を分ちて二種とす。

第13條 通常會員は年會費金貳圓を前納し, 本會機關雜誌の配布を受け, 同誌に寄稿權を有し, 本會開催の年會其の他の會合に出席し演說談話等をなすことを得。

第14條 創立會員は發起人全員とす。年會費金參圓を前納し, 本會機關雜誌及 Lansania に掲載の蜘蛛學關係原著別刷の配布を受け, 前者に寄稿權を有し, 本會並に蘭山會主催の年會其の他の會合に出席し演說談話等をなすことを得。

第15條 本會に入會せんと欲する者は姓名(ローマ字綴共)住所を記し, 會費一ヶ年分を添へ事務所に申込べし。但し其の許諾は役員會の決議に依る。

第16條 本會を退會せんと欲する者は其の旨事務所に申込べし。但し既納の會費は返附せず。

#### 6, 役 員

第17條 本會役員として幹事四名評議員二名を置く。

第18條 本會役員は年會に於て創立會員の投票によりて決す。

第19條 役員の任期は8月より翌年8月に至る一ケ年とす。

第20條 役員は次の事務を分掌す。當分下記の者其の任に當る。

庶務會計	會計幹事	加高	藤島	正春	世雄
編 輯	編輯幹事	三植	好村	利夫	晋夫
本會代表	評議員	福井	玉夫		
學術相談	評議員	岸田	久吉		

#### 7. 役 員 會

第21條 議會を役員會と稱し、幹事並に評議員を以て組織す。

第22條 役員會は必要に應じ適宜之を開く。

第23條 役員會は次の要務を審議す。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1, 入會者退會者の決定 | 2, 金 品 の 出 納 |
| 3, 會合の計畫決定通知 | 4, 會則變更建議の處理 |
| 5, 其 他       |              |

附則 會則の變更を要する場合は會員五名以上の連署を以て役員會に建議すべし。

## Acta Arachnol. 寄 稿 注 意

編輯幹事 植 村 利 夫 案

1. 雑誌は毎年4回 5, 6, 9, 10月に發行する。
2. 寄稿は會員に限る。但し會員外のものとも雖、會員の紹介依頼ありたる時は之を受くる事あるべし。
3. 原稿の採否並に掲載の順序は編輯幹事に一任のこと。
4. 寄稿内容は蜘蛛類(廣義)に關係あるものに限る。

5. 本誌に採用せる原稿は一切返戻せず。但し寫眞及圖畫は寄稿に際し送料を添附して申し出でありたるものに限り之を返送す。
6. 原稿は成るべく和文にて原稿用紙に横書に認め、文字は正確明瞭に、句讀を正しく附し、本文は平假名、生物和名は片假名を用ひ、新行は頭にて一字下げられたし。
7. 原稿記載の順序は必ず歐文題目、和文題目(歐文原稿には必要無し)、姓名、住所、本文の順に従ひ、住所と本文との間に一行空欄を残されたし。
8. 歐文原稿及新種の記載等は蘭山會と協議の上ランザニアに掲載することゝるべし。但し新種の記載を寄稿の場合は基本となせし標本を同時に提出のこと。該標本は本會の所有として保存する。尙歐文原稿は必ずタイプライトすること。
9. 學名に命名者の名を附記する時は略記すること無く、必ず全記されたし。
10. 學名の屬名種名の下には朱の一線を、命名者の下には朱の二線を必ず引くこと。學名以外の場合に於てもイタリツクの必要ある時は之に準じて必ず朱線を引かれたし。
11. 挿圖は成るべく墨汁にて描き亞鉛凸版向に作製されたし。
12. 寫眞・挿圖挿入の場所及大きさ等原稿に朱書下されば幸なり。但し多少の變更あるは免れず。
13. 著者入用の別刷部数は必ず原稿第一頁に朱書すること。但し三十部までは本會の負擔とし、それ以上超過の分には實費を申し受く。
14. 寄稿は東京市瀧野川區西ヶ原町三一〇番地植村利夫宛とし、書留郵便によられ度し。

#### 附 記

寄稿注意は只形式的に書いたものではありませんから、必ず之を實行していただきたいと思ひます。でないに編輯者も寄稿者もお互ひ感情を害し合ふ結果を招来しないとも限りませんから。兎に角樂に編輯の出来る様格別の御注意を拂つて御執筆御願申上ます

( 72 )

1. *Heteropoda venatoria* (Linnaeus)

アシダカグモ

以上の外の不明種は今後の研究を待つて発表する事とする。

著者が壁蝨調査の際種々便宜を與へられた林憲氏、常谷幸雄氏及び壁蝨の鑑定並びに調査に就いて種々助言を贈つた岸田久吉先生に衷心より感謝の意を表する次第である。

前 號 訂 正

1. 十三頁第一行に *Talculifer* とあるのを *Falculifer*, 第十行及挿圖の説明に *T. rostratus* とあるのを *F. rostratus* と御訂正願ひます。此の誤植は全く編輯子の不注意に依るものであります。著者福井博士に特にお詫申上ます。
2. 発起人名簿中木下周太, 北尾淳一郎, 仲宗根善守, 鳥羽源藏, 山路賀藤次諸氏の御芳名にも誤植がありました。深くお詫申上ます。又池田嘉平(新潟)とあるを(広島)と訂正致します。尙尾崎光太郎氏は今回御都合上創立會員を辭して通常會員に御變更なされました。
3. 創立會員として新に次の四氏を追加致しますから御承知下さい。  
中西悟堂(東京) 山川要助(三重) 古川雲堂(和歌山)  
玉寺幸寛(福岡)
4. 四頁の會則第4條に(5, 6, 7, 10月)とあるは(5, 6, 9, 10月)の誤植であります。従つて創刊號と本號は一箇月づゝ發行が遅れてゐたわけですが、次號からは規定通に發行致したいと思つて居ます。
5. 以上の他小さな誤植が澤山ありますが又改めて訂正致します。

(責任者 植村)

( 73 )

會 計 幹 事 敬 白

心配して居た原稿の集まりも良好ださうで此の上は會費を滞りなく御送り下さるのが會計幹事として最も望ましいこととあります。當初の日標は會員數150人でありましたがお蔭様で昨今は150人に近迫しつつあります。此の150人の方々が一人残らず其の年の會費を拂ひ込んで下さるなら會の經營は頗る安固で機關雜誌も一層立派にし得られる譯であります。未だ昭和11年度分未納の御方は奮然として振替貯金で御納め下さい。本誌の1冊の分賣價格70錢はちと高過ぎると誰方も感ぜられるでせうが之は成可く會員になつて頂き度い爲の姑息手段です。全國の蜘蛛同好者熱心家は殆ど全部會員に網羅し得たと想ひますが、尙こちらで識らずに會員なることを願ひしなかつた御方があるかも知れません。それはお互に残念なことですから何卒御入會下さる様、又會員諸賢にして御知友に御心當りのある節は御勤誘若しくは事務所宛御紹介を願ひます。苟くも蜘蛛を論ずるの士は一人も洩れなく東亞蜘蛛學會に加盟して頂き度いものであります。前號にも記しました通り會費領收に對しては一々受領狀は差出しません。又御送金は振替御利用を願ひます。退會なさる際は其の旨葉書で事務所に御通知下さると共に會費以上に御受領になつた會誌代は1冊50錢(前號に70錢とあるのは誤植)の割で清算して頂きます。6月10日から7月7日に至る間の會費既納者芳名を録し御禮申し述べると共に受領證に代へます。

(受領順)

創 立 會 員 [昭和11年度分]

宮下義貫氏 有田經夫氏 佐保護氏 河野光子氏 大前榮次郎氏 和田文雄氏 三好晋氏

通 常 會 員 [昭和11年度分]

米田定一氏 玉村不二男氏 松本茂氏 海老澤房芳氏

(會計責任者 高島)